

4

東京都杉並区

高千穂幼稚園

■クラス数／9 クラス
■幼児数／223 名
■建築主／学校法人高千穂学園
■所在地／杉並区大宮 2-19-1

■敷地面積／3,473.18㎡
■建築面積／1,351.86㎡
■延床面積／1,849.47㎡
■構造・規模／RC 造 地上2階建
■施工期間／2008年7月～2009年4月
※クラス、幼児の数値は平成22年3月末現在

教育方針

- 元気で明るい思いやりのある子ども
- 善悪のけじめがわかる子ども
- どんなことにもくじけず頑張る子ども
- よく見てよく聞いて良く考える子ども

本幼稚園では、教職員や保護者が十分に目の届く環境のなかで、自然や友だちと交流できる体験施設を目指しています。

園舎のなかは自由回廊、 連続性のある園舎と園庭は大きな開放空間。

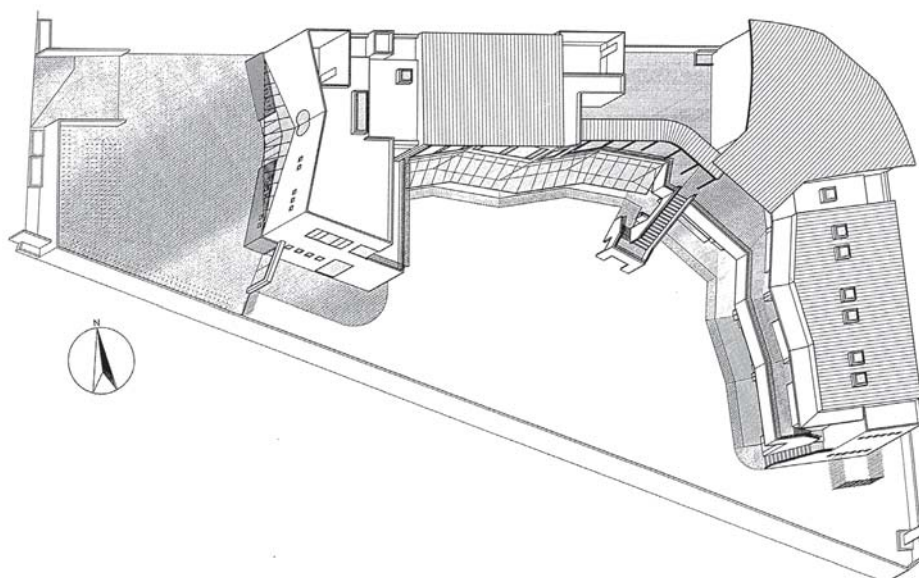
学年ごとにつながりのある保育室、クラスが違って自由にも動ける回廊、その途中には秘密の小部屋。園舎と園庭もフラットな大きな遊び場に早変わり、子どもの興味にあわせ用途が変わる。既存の樹木を活かした幼児が主役の施設づくり。



緑に囲まれ、外部との接点を限定し、安心・安全に配慮した園舎

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な生活体験が可能となる環境の整備
2. 子どもの体力向上のため空間
3. 特別支援教育の推進への配慮



■俯瞰図

多様な生活体験が可能となる環境の整備 └ 興味・関心に応じた活動が確保できる環境



1 床にレベル差を設け、舞台を構成した保育室(年長)



2 保育室の舞台にみんなで集まる(年少)



3 廊下レベルより一段低く設置したカーペット敷き図書コーナー



4 保育室の北側にある手洗い・ロッカーコーナー兼廊下

園長の視点から

子どもたちの がんばりを伝える小さな工夫

保育室の内部に、舞台となるわずかな段差を作りました。子どもたちはこの段差を遊び場として使い、保育では発表会や歌の練習などに使用しています。保育室から園庭を見渡せる大きな窓があり、室内の遊びから室外への遊びへと興味が広がる工夫も施されています。(写真1、2)

子どもたちの興味に合わせて 施設を整備

子どもたちの自由な発想を大切にするために、図書コーナーを園舎の中心である階段下の保育室と園庭の間に設けています。好きな本が自由に読める環境を整備することを目指し、カーペット敷きのコーナーを設け、廊下レベルより一段下げること、本棚で囲まれた落ち着いた空間にしています。(写真3)

遊び、鑑賞、手洗いを 体験できる空間

2つの保育室の間に手洗い場を設けています。手を洗ったあと、すぐに手を拭けるようにタオル掛けを設け、衛生面に配慮しています。また両側の壁面の裏側には、子どもの作品を展示するなど、多様な活動を支援する工夫がされています。(写真4)

子どもの体力向上のための空間
「ガラス庇の明るいテラスと広場を一体化」



5 ガラス庇の明るいテラス。保育室奥の廊下を通じて回遊できる



6 保育室～廊下～テラス～園庭の連続性が子どもの発想で広い遊び場に変化



7 引き戸を開け、2室をつなげて使用することも可能

保育室、廊下、テラスが 大きな広場に変化

保育室、廊下そしてテラスが段差のない同じレベルで構成されているので、扉を開けると大きな広場へと連続する変化のある環境となっています。保育室をはさんで、もう一つの廊下が園舎全体をつなげており、保育室間を自由に移動できます。この回遊性に優れた空間のなかで子どもたちはお弁当を食べていたり遊び回ったり、自由な発想で活動し、体力向上にも役立っています。(写真5～7)

特別支援教育にも役立つ 「デン」

保育室と保育室の間に「デン」という小部屋を設けています。ここは子どもたちの隠れ家で、特に障害のある幼児がパニックに陥った場合には落ち着きを取り戻すための最適な場所となっています。いつもは、秘密基地やおままごとの舞台として使われる子どもの大好きな空間です。(写真8～10)

〈設計者の視点から〉

- ◎本地区には、ケヤキ・銀杏・もみの木など多くの樹木がありました。これらを活かし自然環境との調和を大切に設計することにより、幼児が自然と触れ合え、季節を感じられる空間を作り出しました。(写真6)
- ◎保育時間の延長など、多様な保育形態のために、2部屋の保育室をつなげて利用できるようにしています。(写真7)

特別支援教育の推進への配慮

「障害のある幼児にもやさしい環境の提供を目指して」



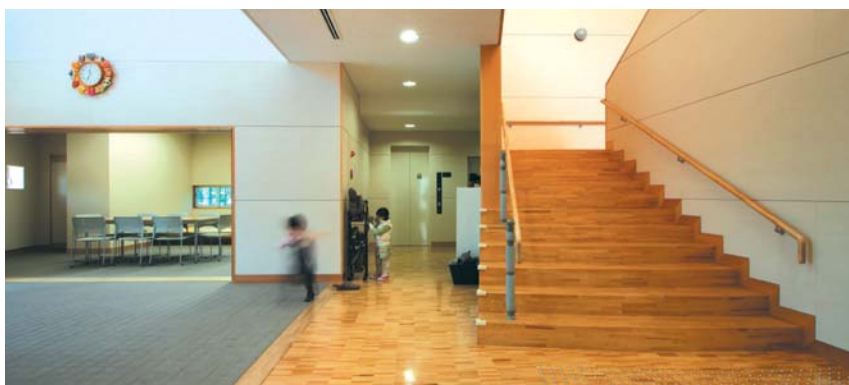
8 デンのある保育室



9 廊下から見たデン／隣の保育室を繋ぐ空間でもある



10 デンはパニックになった幼児を落ち着かせる空間としても利用



11 園舎は床の段差がなく、エレベーターも設置（バリアフリー）



12 ベビーチェアを設置した多目的便所

検討委員会委員の視点から

子どもの体力向上のための空間の観点から

保育室と連続して日当たりのよい半屋外空間が設けられており、幼児の主体的な活動を促す場として、積極的に活用されている。屋内外の連続性は幼児の興味や関心を戸外にも向ける上でも有効である。

特別支援教育の推進への配慮の観点から

保育室に隣接してデンが設けられており、情緒障害、自閉症または ADHD 等の障害のある幼児の落ち着きを取り戻すために活用することが可能である。また、障害者用の便器や手すりを設置した便所を計画するなど、障害のある幼児、教職員等が安全かつ円滑に生活を送ることができるように配慮した計画となっている。

◎園庭に面する廊下をあえてクネクネと曲げることで奥への期待感や好奇心を刺激し、遊びや動きに幅を持たせるようにしています。（写真3）

◎障害者、高齢者やベビーカー利用者にも配慮し、エレベーターの設置とバリアフリー化を実現しています。また、快適な空間づくりのために、床暖房を導入しています。（写真11、12）